

飼料情勢

1. とうもろこしのシカゴ定期は、3月には360セント／ブッシェル前後で推移していたが、4月に入りブラジル産の早魃による減産見通しから上昇し、5月10日発表の米国農務省需給見通しで輸出および国内需要が上方修正され期末在庫が減少したことから堅調な展開が続き420セント／ブッシェル台となった。その後、生育中の米国で高温乾燥による作柄悪化懸念から430セント／ブッシェル台まで上昇したが、天候が改善し作柄悪化懸念が後退したことから大幅下落となり、さらに6月30日に米国農務省が発表した作付面積・全米在庫報告で、いずれも市場の予想を上回ったことから続落し、現在は350セント／ブッシェル台となっている。
2. 大豆粕のシカゴ定期は、3月には300ドル／トン前後で推移していたが、4月に入りアルゼンチン産大豆の収穫時の長雨による作柄悪化見通しから急騰した。その後も、アルゼンチン産の減産により米国産に輸出需要が集中する見込みから高騰が続き、5月10日発表の米国農務省需給見通しで需要増により期末在庫が減少したことからさらに上昇し、450ドル／トン前後での推移となった。その後、6月30日に米国農務省が発表した作付面積・全米在庫報告で、在庫は市場予想を上回ったものの、作付面積が市場予想を下回ったことから堅調な展開となったが、天候改善により米国産大豆の作柄悪化懸念が後退したことから、現在は410ドル／トン前後となっている。
3. 米国ガルフ・日本間のパナマックス型海上運賃は、2月には25ドル／トン前後で推移していたが、中国むけ南米産大豆などの輸送需要が増加したこと、原油相場が上昇したことなどから堅調な展開となり、30ドル／トン前後で推移した。現在は、中国向け石炭等の荷動き増加を受け、30ドル／トン前半となっている。
4. 外国為替は、3月下旬には113円前後であったが、4月に入り米国の利上げ観測が後退したことにより一時105円台まで円高がすすんだ。その後、5月に良好な米国経済指標により米利上げ期待が高まると111円台まで円安となったが、6月3日に発表された米雇用統計が予想を下回り、利上げ観測が後退したことから107円前後まで円高となり、さらにイギリスのEU離脱にともなう世界経済の先行き不透明感から100円近くまで円高がすすんだ。7月8日に発表された米雇用統計が予想を上回ったこと、7月10日の参院選で与党圧勝となったことなどから株高となり、現在は105円台まで円安となっている。

